

# 知恵の樹

No. 260 2021.11.30

町田の図書館活動をすすめる会

<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典

[tejitaka@f8.dion.ne.jp](mailto:tejitaka@f8.dion.ne.jp)

## 町田市立図書館は 20 年間で どのように変化したか

町田市立図書館協議会委員長 松本 直樹(慶應義塾大学文学部准教授)

### 1. 執筆のきっかけ

今回、図書館協議会の委員である鈴木真佐世さんから記事の依頼をいただきました。せっかくの執筆の機会ですのでお引き受けし、私が町田市の図書館を離れてからの変化を整理させていただくこととしました。『知恵の樹』読者の方々には既知のことばかりかもしれませんが、すっかり浦島太郎になった筆者に、少々お付き合いいただけると幸いです。

### 2. 簡単な自己紹介

最初に簡単な自己紹介をさせていただきます。現在、私は慶應義塾大学文学部の図書館・情報学専攻に所属しています。大学では教員をしており、図書館・情報学を教えています。図書館・情報学専攻は、終戦直後、アメリカ図書館協会の協力により設置された図書館学科が元になっております。日本では多くの大学、短期大学で図書館に関わる科目が教えられていますが、そのほとんどは制度的には「司書課程」と呼ばれるものです。それらは、法学部や文学部などに所属する学生が、追加して学ぶ課程に位置付けられています。慶應義塾大学は図書館・情報学を専門課程で教えており、学問としての図書館・情報学を本格的に学ぶことのできる大学です(宣伝です)。

改めて、私自身のことについて述べますと、私は以前、町田市立図書館に勤務をしていました。勤務していたのはずっと中央図書館でした。その間、視聴覚資料担当、システム担当、文学館設置担当として 8 年間勤務しました。8 年間、多くの方々と一緒に働かせてもらいました。思い起こせば、みなさん、本当によい仕事をしていました。私は仕事を覚えるのも、仕事をするの

も遅く、みなさんには多くの迷惑をかけたと思います。とはいえ、本当に楽しく仕事をさせてもらいました。町田市での経験を、現在の日々の仕事に活かしています。

### 3. 町田市の図書館の経年変化と東京都全体との比較

以下では、私が退職した 2002 年度(一部 2011 年度)と 2018 年度を比較しながら、町田市の図書館がどのように変化したかを見ていきたいと思います。比較を 2018 年度と、少し前に設定したのはコロナウイルス感染症の影響を勘案してです。データは「3. 1」は日本図書館協会の『日本の図書館 統計と名簿』を、「3. 2」は東京都立図書館の「東京都公立図書館調査」を用いています。

#### 3. 1. 経年的な変化

まずは基本的な数値ですが、町田市の人口は 1.13 倍に増加しています。図書館数は 2012 年に鶴川駅前図書館が、2015 年に忠生図書館がそれぞれ開館し、現在、8 館です。蔵書数は 1.28 倍に増えています。

次に、図書館のアウトプットの代表格である貸出点数ですが、2002 年度は 3,928 千冊で、2018 年度は 3,780 千冊です。96.2%と微減です。ちなみに、貸出密度(市民一人あたりの貸出点数)は 10.4 から 8.8(84.6%)と、こちらは減少幅が大きくなっています。貸出点数は、2016 年度は 4,285 千冊であり、2002 年度を上回っていましたので、それ以降、急速に減少したことになります。

資料費はどうでしょうか。『市民の図書館』を持ち出すまでもなく、図書館にとって資料費は極めて重要な役割を果たしています。新鮮な資料は、多くの利用者を

ひきつけます。2002年度は1億3,380万円でしたが、2018年度は4,581万円です。2002年度の48.8%であり、大きく減少しています。この期間中、2004年度に大きく減少していますが、2011年度までは1億円を維持していました。その後、1億円を切り2017年度には4,093万円まで減少しています。

運営を支える職員数はどうでしょうか。2002年度、専任職員は93名、非常勤職員が37名、臨時職員が18.2名でした。2018年度は、専任職員が58名、非常勤が108.2名、臨時が19名です。私がいた頃と比較し非正規化が進んでいることが見て取れます。推移を見ると、専任職員が減少し続け、非常勤職員が増加し続けています。業務委託、指定管理者制度の導入圧力を受ける中、正規職員の非正規化が進むことはある程度やむを得なかったのでしょう。

近年のそれ以外の変化として、運営面では2021年度に、中央図書館のカウンター業務について業務委託が開始され、2022年度からは、鶴川駅前図書館が指定管理者による運営に移行する予定です。こうした業務の外部化は、「システムとしての図書館」に大きな影響を与えると考えられます。それは、業務の流れといった比較的目につきやすいものから、組織文化といった深いレベルまで、影響が出てくると考えます。

### 3. 2. 東京都全体の図書館との比較

次に、町田市の変化が、東京都全体(市区町村の合計値)と比較してどのような特徴を持っているのか見てみたいと思います(指標は3.1と完全には一致していません)。比較するのはデータ入手の関係で2011年度と2018年度です。ここでは、町田市と東京都全体でそれぞれの増減を比較します。例えば、ある指標で、町田市が期間中、90%に減少し、東京都全体が110%に増加した場合、 $90 \div 110$ と計算します。この場合、1を超えれば、町田市がこの期間中、東京都全体を上回って増加している(あるいは減少していない)ことを示し、1より小さい場合は、町田市の減少幅が大きいことを意味します。

人口は0.96であり、町田市は増加しているとはいえ、東京都全体と比較すると増加幅は小さいことが分かります。図書総数や来館者数は地域館数が増加したことが影響してか、それぞれ1.37、1.34と町田市が大きく伸びています。しかし、貸出点数は0.89と東京都全体と比較して少なくなっています。予約受付総数も東京都全体と比較して0.81と遠く及びません。地域館数が2館増え、入館者数も増えたにも関わらず、貸出点数、予約受付総数がこれだけ東京都全体と差がついているのには驚かされます。他に相互貸借の貸出点数は0.91です。以上から考えると、現在の書架には市民に魅力的な(特に新鮮な)資料が十分ないことが伺えます。

#### 4. 分かったこととこれから

以上を見てくると、(1)施設数としては増加し来館者も増加していること、しかし、(2)図書館に投入される経営面のリソースが予算面で顕著に減少していること、そのことも影響してか、(3)貸し出し点数を始めとしてアウトプットが減少していること、(4)それは町田市特有の現象であること、が分かります。端的に言えば、投入リソースを大きく削減したことで、図書館の重要な機能を大きく毀損しているように見えます。

今後、図書館には既存の活動を基盤としたさまざまな役割が期待されています。海外の図書館界では、社会的包摂・デジタルインクルージョン、SDGs、STEAM教育などへの貢献、図書館空間の活用(サードプレイス、居場所)、DX(Library4.0)、オープンデータの取り組みなどが始められています。こうした動きは日本の図書館でも遅かれ早かれ進むことでしょう。こうした活動を進めるには、十分なリソースと専門的知識、経験を持つ職員集団が不可欠です。関係者・機関との関係づくり、コレクション構築、メタデータ付与、利用者ニーズ把握など、経験豊富な図書館員だからこそできることばかりです。難しい時期ではありますが、これからの町田市と市民に役立つ図書館づくりに関わっていきたいと思います。

## 図書館との面談に参加して

しょうじりお(鶴川図書館大好き!の会)

今秋10月5日、図書館長、副館長、3名の職員の方と鶴川図書館大好き!の会のメンバー6名が面談を

する機会を持つことができた。やっと現場の方に鶴川図書館についての考えを聞くことができると期待を持ち

つつ参加した。私は、絵本を作る仕事をしながら文庫や小学校、図書館でおはなし会をしていて、図書館行政のことには全く無知だが、住民が親しんで今現在活発に利用している鶴川図書館やさるびあ図書館を閉館してしまうことの重大さは痛感している。現に図書館で働いている人たちは、そのことをどう思っているのか聞きたいと思った。

はじめに、図書館職員の方から、住民はどんな機能を残して欲しいのか聞きたいとご質問があり、私は、「蔵書があり、わからない事を司書さんに相談できることが、最も求める機能です」と答えた。しかし、図書館の方は、すでにそんなことは、すっかり頭から離れているように感じ取られた。もっと目新しい提案を、よりどころとして探している風だった。いつの間に図書館の人々は、図書館があることの重要な意味から離れてしまったのか。大変ショックだった。

町田市の財政が逼迫しているから小さい地域館を

減らし、運営も指定管理者に任せるとい現実があるのであれば、当会が試算してみた、運営を司書資格を持つ会計年度任用職員が担い、常勤職員1名くらいが統括することで図書館費用を縮小する案について率直にどう思うか(これには、任用職員5年更新制を見直し、長く続けられるようにすることが前提である)、質問してみたが、これに対して返答はもらえなかった。副館長は、「これからも市民のニーズを聞きながら、ある時期が来たら決める」と発言があったきりである。それは、市民の意見はいろいろあっても決めるのは、市だということの意味する。「町田市に民主主義はアリマセン」と、公然と言われた訳である。

面談は、午前10時から12時まで行われたが、結局、私たちが愛している市立図書館を、図書館の人は愛してはいないのだと感じた。この気持ちの乖離をどう埋めて行ったらいいのだろうか？

(会員)

## 第3回 鶴川図書館応援まつり実施報告

鈴木 真佐世(鶴川図書館大好き!の会事務局)

10/17(日)の第3回鶴川図書館応援まつりにご参加、ご協力をありがとうございました。当日は朝からあいにくの雨の下、本来でしたら広場で行うところを、雨を避けて商店街のアーケードの下での開催となりましたが、親子連れの方々をはじめ、年配の方、中高生など、幅広い年齢の方が数多く参加してくださいました。まつりのチラシを一人で800枚も各戸にポスティングした会のメンバーをはじめ、快く全園児に配布して下さった近隣の2幼稚園、7保育園など、みなさまのご協力のおかげと感謝しております。

### 鶴川図書館について考え、存続を願う企画

1. わたくしたちにとって鶴川図書館とは～中学生の視点から:鶴川ショートムービーコンテスト応募作品「鶴川図書館存続のために～中学生、浪江度の魂を訪ねて」(コラム参照)をPCでエンドレス上映し、上記作品に出演した中学生たちの感想と監督の言葉を紹介するB1判パネル2枚を展示し、上映している作品と併せて見せながら来場者に説明。(私たちの活動に中学生が関心を持って関わってくれた記念すべきことで、これからも若い人たちとのつながりを大事にしたい。)

2. 鶴川図書館を考える:「鶴川図書館大好き!の会」便りNo2などを配布し、鶴川図書館の存続問題について説明。手渡した便りを要らないという人はおらず、参加者皆が関心を持っていることを肌で感じた。
3. 一言応援メッセージ:参加者の大人や子どもに応援メッセージを書いてもらってボードへ掲示。いくつかを以下に紹介します。
  - ・いつもたくさんの絵本が読めて有り難いです。これからもずっとなくならないでほしい!頑張ってください!
  - ・図書館は文化の担い手 いろいろな本に出会いたい。
  - ・鶴川図書館をなくさないでください。存続とさらなる充実を願って!



(それぞれのブースに30～40名参加)

### 鶴川図書館を応援する企画

1. 柿の木文庫によるおはなし会:図書館や文学館の

- 大型絵本、紙芝居を上演。また、夏休みに夢基金の助成を活用した紙芝居つくりワークショップで制作した小学生のうち3人が自作の上演で参加してくれたのは大きな成果。小学生の上演を子どもたちはじっと集中して見ていたのが印象的であった。
2. さんさん音楽劇団によるチェロのオリジナル楽曲に合わせた大型絵本読み聞かせとものづくりコーナーで、ハロウィンをモチーフにしたマラカスなどの制作（合羽を着て、両方のおはなし会をめざして来てくれた親子もいて感激。図書館の脇のアーケードで実施したので、窓越しに書架も見え、おはなし会に最適の場所だった。子どもたちが座るところに敷いたマットは図書館からお借りした。40名位の親子が参加）。
  3. 鶴川図書館クイズ：図書館がクイズの問題作りに協力してくださった。大人から幼児まで40名近くが参加し、図書館に入って、答えを探した。今回は、幼児や小学生向けだけでなく、中高生向け、大人用の質問も用意したので、参加者の年齢幅が広がった。

### 本につながる企画

1. 町田の英語多読の会による「英語の絵本を読もう」：初めての参加。英語に慣れ親しむためにイギリスやアメリカで出している絵本や易しい読み物を紹介し、辞書なしで読むということを推奨した。興味を持った方々が多かったのはよかったが、案内チラシや活動を知らせる文書などがあればもっとよかった。
2. a-Nest 出版による「本を出す夢をかなえませんか？～自費出版を応援します～」：調布市からはるばる参加。自費出版に関するチラシ、パンフレット、これまで出版してきた本を紹介。立ち寄った人に、本作りについて説明し、本は読むだけでなく、作ることも楽しいということを伝えた。「図書館は市民がつくり、育てるもの」と共感するところがあり、参加させていただきとても有意義だった、と担当者より。
3. 古本市：まつり恒例。本を寄贈してくださった方々のおかげで、大人も子どももお気に入りの本をゲットできて、嬉しそうだった。

### まつりを盛り上げ、楽しむ企画

1. みどりの森保育園のママさんブラスメンバー17人による演奏でオープニングを盛り上げていただいた。コロナ下で久しぶりの演奏する機会と喜んで参加していただき、演奏後もお子さんと一緒におまつりを楽しんでくださった様子。

2. 子育て支援団体であるNPO法人「みんなのそら」による「松ぼっくりを使ってツリーをつくらう」：ペットボトルの蓋に粘土を詰めて松ぼっくりを固定し、ビーズなどを飾り付けて仕上げる工作。13時前からは、キーボードで歌いながら行った大型絵本「はらぺこあおむし」の読み聞かせでは、手作りの「あおむし」が大人気だった。「みんなのそら」と「鶴川冒険遊び場」のチラシも配布。
3. 「ハギレで本のしおりをつくらう」：スーパーヤマザキのすぐそばのパン屋さん前に出展したので、スーパーに来たお客さんにも声をかけることができよかった。高校生も手伝いを申し出てくれて、子どもたちが中心になって片付けもしてくれた。地域のつながりの素晴らしさを実感。
  2. と3. のブースは例年大人気のブースで、共にたくさん子どもや大人が参加して夢中になって作り、それぞれ素敵な作品を持ち帰った。
4. 町田レクリエーション連盟によるバルーンアートとニュースポーツ（ラダーゲッター、皿回し、ボッチャ、スポーツダーツ）：それぞれ30～60人の子どもから高齢者までが参加して楽しんだ。
 

今回は特に図書館や本につながるブースが増え、だんだん図書館応援まつりらしくなってきました。参加者も、まつりの趣旨に賛同して雨の中をいらして下さった方が多いことも肌で感じました。このまつりが、図書館が大好き！図書館が大切！と生活の中で確認するイベントに育ってきたことの証ではないでしょうか。そして、そのような思いを持つ人たちの輪が広がってきたことも実感しています。直営の鶴川図書館を盛り上げ、支える活動の一環として今後も続くことを願ってやみません。（会副代表）

### ショートムービー「“鶴川図書館”存続のために～中学生、浪江虔の魂を訪ねて～」の制作について

当会の第3回ワークショップの中の話合いから生まれた。制作者である篠田道秀氏の企画で、鶴川図書館の存続を願う中で、鶴川の地域に私立南多摩農村図書館をつくった浪江虔さんゆかりの地を地元の中学生がめぐり、図書館問題を自分のこととして考えようとした短いドキュメンタリー。

YouTube でぜひご覧ください。

<https://youtu.be/n5tbQDHNKZs>

# 「ビブリアバトル」の勧め

藺田 碩哉(まちだ未来の会代表)

## ●ビブリアバトルは普及したが…

この小論のタイトルを見て「あれ、ビブリアバトル」の誤植ではないの？と思う方が多いだろう。「^」の位置が1つずれていませんか、ということだが、これでよろしい。バトルでなくてハドルで行きましょうという新提案なのである。

図書館に関わる人や本好きの方々なら、先刻ご承知のビブリアバトルは、何人かの出場者がそれぞれ読んだ本の紹介を決められた時間内に行い、聴衆がそれらを聴いて一番読みたい本を選ぶという「書評コンペ」である。読書という個別の行為を大勢が参加するイベントに仕立てた面白さがある、読書界ではかなりの普及を見せているが、次のような問題点も指摘できる。

\*1冊の本を的確に紹介するのはなかなか難しい。本に書かれていることの概要をまとめ、それへの感想、批評を行う「書評」は、ただの感想文に比べて難易度が高い。今どきの大学生で、これを的確にこなせるのは少数派。したがって発表者を見つけるのが難しい。

\*バトル(コンテスト)であって最後に評価を受けるので、発表内容はもちろん、スピーチに自信がないと出ていけない。本好きでも内気な人は二の足を踏む。

\*バトルで勝つためにものをいうのは発表力であり、プレゼンテーション能力である。したがって、プレゼンのトレーニングのプログラムとしては最適だが、問われているのはテーマの本の内容ではなくて、発表する本人の能力である。つまらない本でも見事なスピーチでバトルに勝つこともありうる。つまり、ビブリアバトルは結果的に、本(ビブリア)そのものに着地していない。

## ●ビブリアハドルの提唱

新たに提案するビブリアハドルは本を巡っての自由な話し合いであり、気楽に参加でき、イベントとしても盛りあがる。バトルに代わる「ハドル」という語は、外来語としてそれほど定着していないが、ラグビーの試合で選手たちが円陣を組んで頭を寄せ合い、氣勢を上げる—あれがハドルである。英語の原義は「群れること、ゴタゴタ押し合うこと」。They huddled together around

the fire.これはキャンプファイヤーのイメージだが、「集まって相談する」という意味でも使われる。

われらがビブリアハドルの進め方は次の通り。

- 1)発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2)順番に1人 5分間で本を紹介する。…ここまではビブリアバトルと同じ。ただし、ハドルでは書評というより、その本について感じたこと、考えたことを思いのままに話せばよい。特に感心(感動)したところ、面白いところを探して読み上げるのもいい。
- 3)発表が終わったら発表者は自分のコーナーを作り、参加者は興味をひかれた本のコーナーを選んで発表者の周りに集まる(ハドル=群がる)。もし誰も訪ねて来なかったら、その発表者は他のコーナーに参加する。
- 4)それぞれのコーナーでその本をネタに自由な話し合いを楽しむ。コーナー間を移動するのも自由。
- 5)最後に全体会を行い、各コーナーから2,3人が出て、話し合われたことや自分の感想を述べる。

ビブリアハドルでは発表者は評価を受ける「選手」ではなく、本を巡って愉快的話し合いができるようになるための話題提供者であり、きっかけづくりの役目である。それが果たされれば、後は他の参加者と同じ目線で話し合いに参加すればよい。特にまとめ役をする必要はない。目的は本を巡る話し合いにある。本そのものが着地点である。

ビブリアハドルは本を巡る自由なグループ討議であり、特に目新しいわけではない。同様なことは各地の読書会でも行われているだろう。だが、これに「ビブリアハドル」という名前を付けたのが新しい。命名は筆者のオリジナルであり、他で聞いたこともない。Googleで検索すると「ビブリアバトル」に行ってしまう。

この新しい名称を生かして「ビブリアバトル」とは似ているけれど一味違う、本が好きになる新イベントとして宣伝すれば、バトル人気に便乗して関心と呼ぶことができるのではないかと思う。これを「鶴川図書館大好き!の会」で取り組んで各方面の関心を集め、図書館を守る運動の一助にしたいと考えている。賛同してくだ

# 町田の図書館・文学館を担う職員として

自治労町田市図書館嘱託員労働組合執行委員長 杉本 佳奈

今年度、町田市図書館嘱託員労働組合の執行委員長を務めております杉本佳奈と申します。当組合の構成員は大半が図書館司書ですが、私は文学館採用の学芸員です(文学館には現在、会計年度任用職員として司書2名以外に展示担当の学芸員が2名、教育普及担当の学芸員が1名、広報担当の事務職員が1名配置されています)。業務としては主に展示会の企画をしており、他館への異動もないという、多くの組合員とは異なる環境で仕事をしております。

そんな私が今期、執行委員長という立場で活動していくことを決めた要因に、今年3月、継続して働くことを希望していた文学館採用の会計年度任用職員(貴重資料整理担当の司書)のAさんが、2021年度から契約内容の職種をなくすことを理由に再度任用をされず退職した問題があります。当然のことながら業務自体がなくなったわけではなく、現在でも貴重資料(作家の直筆原稿や原画、愛用品等)の収集・調査・保存は文学館の重要な使命のひとつです。職種をなくす理由は、新たに広報担当の会計年度任用職員を雇うため、と示されました。通告された本人から報告を受けて以降、組合としてギリギリの提案・交渉をしたものの、その時点で既に覆すことのできない状況にきていたこともあり、結果的に雇用を守ることができませんでした。会計年度任用職員制度が導入され、嘱託員時代にはなかった年2回の期末手当が支給されることになったという改善点はあるものの、安心して働ける状況ではなくなっています。

私は担当業務は異なるものの、Aさんとは同じ文学館採用職員として10年以上にわたり共に働きました。通告後、職場に対する不信感を募らせていく姿も、抱えていた仕事を完遂できなかった無念も傍で見ました。雇用の継続を望みながら叶わなかった人がいたことは、同じ立場で働く人の労働意欲にも少なからぬ影響を与えます。実際に、この件をきっかけに文学館に勤務していた他の2名の会計年度任用職員が他市へ転職していきました。私は、「文学」を冠する現場でこのようなことが起きたことに対して、動揺せずにはいら

れませんでした。「文学に何ができるのか」という問いへの答えはひとつではありませんが、私は、他者の生の営みへの眼差しを持ち、そこから想像力を育むことだと思っています。言わずもがな、雇用問題はその人の人生に関わる大きな問題です。“市民のための文学館”という方針に共感し、夢を持って働いてきた現場ではありますが、共に働いてきた仲間の仕事を本人が最後まで納得できない不本意な形で終わらせてしまった今、果たして自分はここで今後も文学の魅力を伝えるという使命を担っていくことができるのかという懸念まで抱きました。文学の力を信じ、専門員として質の高い市民サービスを提供するために真摯に業務を遂行しようという気持ちは今も変わりませんが、おそらくこの胸の苦しさはずっと抱え続けていくことになるでしょう。今後、二度と同様の事態を起こしてはいけないと奮起し、執行委員長として活動していくことを決意いたしました。

そんな気持ちで迎えた今年度、当組合は発足以来最大の窮地に立たされています。来年度の鶴川駅前図書館指定管理者制度導入に伴う職員の定数減に加えて、再度任用の上限4回を迎える組合員がいます。現在、働き続ける意欲がある組合員全員の雇用を維持すること、2022年度採用の公募を行うこと、という2点を柱に当局と交渉を進めているところです。

地域に根差した施設である図書館・文学館が高い水準のサービスを維持するためには、資料だけではなく経験を積んだ職員の存在が不可欠です。「すすめる会」の会員の方々をはじめ市民のみならず、我々の現状に関心を持っていただけているのは大変ありがたく、心強く思っております。困難な状況にあっても、一人ひとりが図書館・文学館の職員としての矜持を持ち、日々研鑽しながら業務に励んでおります。どうぞ今後もお力添えをお願い申し上げます。(町田市民文学館)



# 第 19 期図書館協議会 第 2 回定例会報告 (報告者: 協議会委員 鈴木 真佐世)

2021 年 11 月 12 日(金)午後 2:00~4:00 まちだ市民文学館 大会議室 出席 10 名 傍聴 2 名

## 〈図書館からの報告事項〉

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う図書館の対応について⇒感染症拡大防止の対策を継続しながら平常通り開館

## 2. 町田市教育委員会の動向

(1) 第 7 回定例会(10 月 8 日): 第 5 期町田市生涯学習審議会委員の委嘱⇒図書館協議会の推薦にもとづき 10 月 1 日付で仲村委員に委嘱の旨報告

(2) 第 8 回定例会(11 月 5 日): 議案第 24 号 町田市立図書館条例(案)について⇒次回市議会定例会に議案として上程するため議事非公開

## 3. アクションプランの取組など

(1) 移動図書館のイベントなどへの出張運行(出張先: 10/31(土) 大地沢青少年センター イベント名「働く自動車集合!!」) 来館者: 127 名、おはなし会参加: 36 名。あいにくの雨だったが多くの参加があった。

11/20(土)「星空シバヒロピクニック」

(2) 英語多読講演会「英語多読で楽しく遊ぼう!」開催。11/3(祝) 14:00~中央図書館 6 階ホール。参加者: 43 名。講師: 酒井邦英氏(NPO 多言語多読理事)・・・若い世代の参加もあった。

委員: イベントについて生涯学習センターにも情報提供を。センターが情報発信のハブになるといい。

委員: 英語多読について、英語が通じない国の人も増えるので、英語だけでなく多言語を考えてほしい。

事務局: 多言語は今後の課題。

〈町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の推薦について〉・・・委員互選の結果、鈴木真佐世が前期に引き続き推薦された。

## 〈移動図書館(略称: BM)について〉

事務局は、BM の小型化について意見を求めるとして、現在、赴いている幼稚園 1 園と保育園 3 園を例に BM の駐車スペース問題を説明。

委員長: 図書館はだれでも利用できることが原則だが、実際は近隣の人に限られてしまう。BM で誰にでもサービスを届けられる。小型化の時間的なスケジュールはあるのか?

事務局: まだ確定していない。

委員: 4 点質問と意見がある。

1) 幼稚園保育園への出張はどう選んでいるのか?

2) 小型化のメリットとして運行可能な場所が増えるというのは?

3) 車輛 3.5 トン未満とは具体的にどれ位?

4) 乗車定員が少なくなると、読書相談が受けにくくなることについて具体的に。読書相談の内容は?

事務局の回答

1) 貸出の登録をしている園の中で来てほしいと手を挙げた園で可能か調査した結果。

2) 間口が小さく不可能だったところも運行可能になるなど可能な場所が増える。

3) 3.5 トン(車輛+本+人員)以内⇒厚木市の車(町田の現在のものは 8 トン)。明石市の BM は 500 冊積載。この冊数では、保育園など利用者が限定されるときは可能だが、一般のブラウジングに対応するには少なく、ポイントによって全部積み替える必要も生じる。

4) 司書職員が 1 人に減ると貸出等に追われ、対応が難しくなる。相談内容は、図書館での読書相談と同様。

委員: アンケートによれば、利用者は本の取り揃えに不満を持っている。大型を必ずしも確保しなくても、一定の冊数の確保と同時に新しい本を増やして図書の鮮度をよくすることで対応が可能なのではないか。

委員: BM にネット環境を整えたい。

事務局: 中央図書館にまず Wi-Fi を入れることを目指している段階。

委員: どれくらい予約受け渡しがあるか。

事務局: 予約受け渡しの人とその場で探して借りる人の割合のデータは今手元にない。

事務局: BM の積載重量、積載可能冊数、同乗可能人数、必要な運転免許の種類などを整理して次回に示す。

## 〈図書館評価について〉

今後の予定について評価担当職員から説明。

・ 第 2 回目のコメント(自分の担当でないところも OK) を 12 月 5 日までに図書館にメールで提出する。

・ 12 月 24 日の第 3 回定例会では全体で検討する。

・ 1 月 25 日の第 4 回定例会でまとめる。

その後、担当グループに分かれて、1 時間ほど評価内

容について検討し、16時に終了。(会副代表)

### ★第19期図書館協議会第3回定例会

2021年12月24日(金) 午後2:00~4:00

中央図書館6Fホール 傍聴しましょう!



## ひろば

### 例会 10/26 (火) 報告

・16:30~ 印刷・発送作業等:  
清水・鈴木・手嶋・守谷  
・18:00~20:00  
中央図書館・中集会室  
出席:石井・金澤・雲中・清水  
・鈴木(真)・手嶋・守谷

### 議題

#### 1. 会報について

次号(No260):巻頭言(第19期町田市立図書館協議会委員長の松本直樹さんに依頼済み)、鶴川図書館大好き!の会第3回鶴川図書館応援まつり(10/17)報告(鈴木(真))、「こんな本見~つけた!」第31回(未定)→掲載見送り、嘱託労執行委員長の就任あいさつ(杉本佳奈さん)、鶴川図書館の再編計画に関わる図書館長との面談報告(守谷→しょうじ)、第19期図書館協議会第2回定例会(11/12)報告(鈴木(真))

#### 2. 今年度の活動計画について

講演会について、講師の候補を検討したが、適当な人がいない。今年中に計画決定する必要がある。

#### 3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

○鶴川図書館大好き!の会の取り組み:今年度は鶴川図書館が公立図書館として存続できるよう活動する。

10月5日(火)午前11時~ 鶴川図書館の再編計画について図書館長との面談。

「大好き!の会」としては、常勤職員を減らし、会計年度任用職員中心で直営を維持しつつ図書館を運営する荒川区のやり方を推したが、図書館は今後も市民グループの意見を聞くということで、あくまでも直営ではない方法を考えているようだ。こちらの意見を正式に伝えたが、図書館からは反応がなかった。「知恵の樹」今号、2~3頁参照。

10月17日(日)第3回鶴川図書館応援まつり開催。

「知恵の樹」今号3~4頁参照。

11月7日(日)「大好き!の会」鶴川市民センター

#### 第1会議室

#### ○「すすめる会」の取り組み:

①鶴川駅前図書館への指定管理導入スケジュール

9月29日(水)市議会本会議で第88号議案可決。事業者(久美堂・ヴィアックス)の指定が議決された。

「知恵の樹」No.259 巻頭言参照。

②図書館嘱託労との話し合い

・「大好き!の会」、「すすめる会」は、当局が指定管理者制度の拡大を進めるのであれば、荒川方式で直営で運営することを推していく。このことについて委員長、書記長と意見交換した。今後も嘱託労との意見交換を進めたい。

#### 4. その他

見計らいをやめる動きがある。選定に要する労力がかかりすぎるという管理職の見解だが、このような流れは直営の意味がなくなる心配もある。

### 報告

#### 1. 第19期図書館協議会第1回定例会

「知恵の樹」No.259 参照。

#### 2. 団体及び個人からの報告

嘱託労:鶴川駅前図書館の指定管理者になる久美堂・ヴィアックスの職員採用についての説明会(会計年度任用職員対象、一般は後日)があった。

2021年会計年度任用職員賃金等に関する要求書を10月12日付で提出。

学校図書館を考える会:指導課と面談をした(10月20日)。学校司書配置は今年度0人。2020年度の結果が不十分だったため進まなかった。モデル事業は1年間で成果を示さないと本事業にならないとのこと。学力テストの結果も成果にすることを考えていたようだ。

柿の木文庫:学校などのおはなし会も再開している。直接のおはなし会と放送のハイブリッドおはなし会を実施した。先生たちのチームワークが重要になるため、学年を挙げての対応となり、雰囲気は良かった。

金森図書館:おはなし会を再開した。

《編集後記》10月5日に行われた図書館長との面談は、今号にしょうじりおさんの報告を掲載したが、鶴川図書館大好き!の会の提案に対し、今後も市民グループの意見を聞くという回答があっただけだった。既に直営を放棄する形での予算編成が進んでいる。「『町田市に民主主義はアリマセン』と、公然と言われた」とのしょうじさんの憤りを共有したい。図書館もどきは不要。(T2)